

内部評価結果調査（施策評価 10）

施策名	国際交流と地域間交流の推進
-----	----------------------

担当部局	担当部局長の氏名
企画総務部	渡部 貴徳

PLAN

総合計画(前期基本計画)

基本方針	(政策)	V パートナースhip都市						
計画項目	(施策)	⑤ 国際交流と地域間交流の推進						
施策目的	(何を対象に、どのようにすることを目的としているか)	国際交流においては、市民と諸外国の人々との親善活動を通じ、幅広い分野で市民の異文化への理解と交流を推進するとともに、本市の魅力や魅力を積極的に世界に向け発信することにより、人・ものが活発に交流する活力にあふれたまちづくりの実現を図る。 地域間交流においては、平成20年1月11日に友好都市盟約を締結した木津川市と文化・産業・観光等の交流を促進することにより、住民福祉の増進及び地域の活性化を図る。また、共通の行政課題を持つ豊岡市や中日本海交流会議構成自治体と情報交換や共通課題を解決するために連携を行うことにより地域振興を図る。						
めざす目標		指標名	総合計画策定時(H17)	前期基本計画最終実績値	目標			
	国際都市にふさわしい環境づくりをめざします	姉妹・友好都市提携締結数	0都市	H17	1都市	H21	2都市	H26
※参考 後期基本計画 めざす目標		指標名	総合計画策定時(H17)	後期基本計画策定時	目標			
	国際都市にふさわしい環境づくりをめざします	姉妹・友好都市提携締結数	0都市	H17	1都市	H21	2都市	H26
	外国人も暮らしやすい環境づくりをめざします	市ホームページ外国語表記数(行政情報)	新規	-	1言語	H21	3言語	H26

DO

平成21年度実績

施策方針	事務事業	事務事業評価の結果						担当課
		H21決算額(千円)	内、一般財源(千円)	目標達成度	効率性	事業内容の方向性	事業規模の方向性	
1 国際化にふさわしい環境整備	1 国際交流活動推進事業	1,461	1,461	○	○	維持	縮小	企画
	京丹後市国際交流協会に対し、運営補助として1,390千円の財政支援。協会は、国際理解教室等を実施							
3 地域間の連携と交流の強化	2 木津川市等国内交流事業	34	34	▲	○	維持	維持	企画
	木津川市との交流事業を行った団体に対する財政支援。また、「木津川市木の津まつり」に出展。							
計		1,495	1,495					

CHECK

評価	① 施策の達成度 施策目的・めざす目標に向け、施策がどの程度達成されているか		
	○	◎ 予定以上に進んでいる	理由 国際交流においては、市民が幅広く参加できる国際交流演奏会が開催されるなど、国際理解に向けた活動が活発化したほか、毫州市訪問団の市民による受入れが実現するなど、市民の国際交流活動が推進された。また、21年9月から始まった日本語教室では市内の外国人に生きた日本語を教えることができ、日本人と外国人の間での交流推進に役立っている。 また、地域間交流においては、木津川市との間で少年野球交流に加え、11月に木津川市で開催された「木津川市木の津まつり」では京丹後市ブースを設置し、特産品の販売と京丹後市のPRを行ったことにより両市の交流が深まった。豊岡市や中日本海交流会議構成自治体との交流においては、年1回会議を開催する中で、幅広い連携協力が図られた。
		○ 予定どおり進んでいる	
		▲ 少し遅れている	
		× 大幅に遅れている	
	② 事業構成の有効性 施策目的の実現と、めざす目標の達成のために、平成21年度に実施した事務事業の構成が有効であったか		
	○	◎ 有効であった	理由 国際交流・地域間交流の両事業において、行政レベル・民間レベル両面での積極的な交流と連携の推進が図られる事業構成となっている。
		○ おおむね有効であった	
		▲ あまり有効でなかった	
		× 有効でなかった	
③ 事業の優先度 施策目的の実現と、めざす目標の達成のために、今後、優先度の高い事業と、優先度の低い事業は何か ※経常的及び任意的な事業の中から選出			
優先度 高い	事務事業		理由
	1	国際交流活動推進事業	グローバル化に伴い、国際交流推進に向けて取り組む意義は大きいと考えられる。
優先度 低い	事務事業		理由
	2	木津川市等国内交流事業	市民が主体となった交流が図られるような事業に取り組んでいくことが必要。

ACTION

今後の施策展開をどうするか	
改善	国際交流においては、市民レベルで国際交流を推進する京丹後市国際交流協会の活動に対し、引き続き財政面での支援を行う。 また、地域間交流においては、関係自治体との間で緊密な連携協力を行うとともに、民間分野において、さらに幅広い分野で様々な交流を促進していく。

平成22年度 事務事業評価

整理番号
27-1

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	01	01	07	04	01
細事業名		国際交流活動推進事業				

担当部局	企画総務部
担当課等	担当課長の氏名
企画政策課	浜上 喜久男
	担当者の氏名
	嶋本 友美

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) V パートナースhip都市
	計画項目 (施策) ⑤ 国際交流と地域間交流の推進
	施策方針 1 国際化にふさわしい環境整備 2 国際交流支援の仕組みづくり
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 市民と諸外国の人々との親善活動を通じ、幅広い分野で市民の異文化への理解と交流を推進するとともに、本市の魅力積極的に世界に向け発信することにより、人・ものが活発に交流する活力にあふれたまちづくりの実現を図る。
	平成26年度事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 国際交流協会個人会員数 180人

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 市民レベルで国際交流を推進する京丹後市国際交流協会に対し、運営補助金として1,390千円の財政支援を行った。(補助金交付先の実績:国際理解教室延べ参加人数 58人、国際交流演奏会参加者数 約130人) また、毫州市訪問団(6名)を受け入れた。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 国際交流協会個人会員数 101人

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
予算科目	9	29	国庫支出金		
	11	5	府支出金		
	13	37	起債		
	19	1,390	分担金・負担金		
			その他		
			一般財源		1,461
事業費合計		1,461	合計		1,461

CHECK		
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか	
	○ 進捗している(できている)	理由 市民が幅広く参加できる国際交流演奏会が開催されるなど、国際理解に向けた活動が活発化したほか、毫州市訪問団の市民による受け入れが実現するなど、市民の国際交流活動が推進された。また、9月より始まった日本語教室では市内の外国人に生きた日本語を教えることができ、日本人と外国人の間での交流推進に役立っている。
	▲ 少し遅れている(少しできていない)	
	× 遅れている(できていない)	
効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか		
○ 削減の余地がなかった	理由 国際交流協会の活用の多様性および効果の高い事業が拡大している中で、協会の自主財源だけでは運営できない状況であり、コスト削減の余地は無い。	
▲ 少し削減の余地があった		
× 削減の余地があった		

ACTION		
改善	事業内容の方向性	
	A 現状維持	理由 国際交流協会への財政支援および助言・指導については、今後も進めていく。
	B 内容の見直し	
	C 統廃合・休止・終了	
	事業規模の方向性	
	C 事業縮小	理由 国際交流協会の活動の多様化及び拡大が見込まれるところではあるが、協会は自主財源の確保に努めていただき、市は事業規模(補助額)の縮減を図る。
B 現状維持		
A 事業拡大		

平成22年度 事務事業評価

整理番号
27-2

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	02	01	10	02	05
細事業名		木津川市等国内交流事業				

担当部局	企画総務部
担当課等	担当課長の氏名
企画政策課	浜上 喜久男
	担当者の氏名
	小森 剛志

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) V パートナースhip都市
	計画項目 (施策) ⑤ 国際交流と地域間交流の推進
	施策方針 3 地域間の連携と交流の強化
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 平成20年1月11日に友好都市盟約を締結した木津川市と文化・産業・観光等の交流を促進することにより、住民福祉の増進及び地域の活性化を図る。
	平成26年度事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 交流団体数:3団体

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 木津川市との交流事業を行った団体に対して、補助金の交付(25千円)を行った。また、「木津川市木の津まつり」に京丹後市から出展し、京丹後市のPR及び交流を行った。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 交流団体数:1団体

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
交流団体数	9	4	財源内訳	国庫支出金	
	14	5		府支出金	
	19	25		起債	
			分担金・負担金		
			その他		
			一般財源		34
事業費合計		34	合計		34

CHECK								
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか							
	<table border="1"> <tr> <td>▲</td> <td>○ 進捗している(できている)</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">当初は、2団体が交流事業を行う予定であったが、新型インフルエンザの流行の影響により、1団体の交流事業が中止となった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>▲ 少し遅れている(少しできていない)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>× 遅れている(できていない)</td> </tr> </table>	▲	○ 進捗している(できている)	理由	当初は、2団体が交流事業を行う予定であったが、新型インフルエンザの流行の影響により、1団体の交流事業が中止となった。		▲ 少し遅れている(少しできていない)	
▲	○ 進捗している(できている)	理由	当初は、2団体が交流事業を行う予定であったが、新型インフルエンザの流行の影響により、1団体の交流事業が中止となった。					
	▲ 少し遅れている(少しできていない)							
	× 遅れている(できていない)							
評価	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか							
	<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>○ 削減の余地がなかった</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">事業規模の縮小により実施事業に対する必要最低限の補助である。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>▲ 少し削減の余地があった</td> </tr> <tr> <td></td> <td>× 削減の余地があった</td> </tr> </table>	○	○ 削減の余地がなかった	理由	事業規模の縮小により実施事業に対する必要最低限の補助である。		▲ 少し削減の余地があった	
○	○ 削減の余地がなかった	理由	事業規模の縮小により実施事業に対する必要最低限の補助である。					
	▲ 少し削減の余地があった							
	× 削減の余地があった							

ACTION							
改善	事業内容の方向性						
	A	<table border="1"> <tr> <td>A 現状維持</td> <td rowspan="3">理由</td> <td rowspan="3">木津川市との交流は、子どもたちを中心にしながら、イベントでの交流等、人と人との絆を大切にしながら着実に交流・連携を進めているところ。今後は行政レベルでの交流をはじめ、民間レベルにおいてもさらに幅広い分野で、さまざまな交流を促進していく必要がある。</td> </tr> <tr> <td>B 内容の見直し</td> </tr> <tr> <td>C 統廃合・休止・終了</td> </tr> </table>	A 現状維持	理由	木津川市との交流は、子どもたちを中心にしながら、イベントでの交流等、人と人との絆を大切にしながら着実に交流・連携を進めているところ。今後は行政レベルでの交流をはじめ、民間レベルにおいてもさらに幅広い分野で、さまざまな交流を促進していく必要がある。	B 内容の見直し	C 統廃合・休止・終了
	A 現状維持	理由	木津川市との交流は、子どもたちを中心にしながら、イベントでの交流等、人と人との絆を大切にしながら着実に交流・連携を進めているところ。今後は行政レベルでの交流をはじめ、民間レベルにおいてもさらに幅広い分野で、さまざまな交流を促進していく必要がある。				
	B 内容の見直し						
	C 統廃合・休止・終了						
	B	事業規模の方向性					
A	事業拡大	理由	事業の実施に当たっては、京都府の最北・最南端という位置関係から移動・宿泊等に係る経費の確保が難しい状況ではあるが、現状の事業規模のなかで、事業の継続実施が図れるように努める。				
B	現状維持						
C	事業縮小						

予 算 科 目	02総務費	01総務管理費	07企画費	
事 業 名	04 国際交流推進事業			決算書
細 事 業 名	01 国際交流活動推進事業			P.90
決 算 額 ①	最 終 予 算 額 ②	不 用 額 (②-①)	執 行 率	
1,461千円	1,555千円	94千円	93.9 %	

【主要な事務・事業及び成果の概要】

市民と諸外国の人々との親善活動を通じて、幅広い分野において国際交流を推進し、人・ものが活発に交流し活力にあふれるまちづくりの実現に寄与することを目的に、市と連携・協力しながら国際交流推進事業を展開する「京丹後市国際交流協会」に対し、積極的な事業の推進と円滑な協会運営を図るため、補助金を交付した。

○国際交流協会活動費補助金 1,390千円

【京丹後市国際交流協会の会員数（平成22年3月31日現在）】

- ・個人会員：101人
- ・団体会員：4団体

【京丹後市国際交流協会の実施事業】

- ・国際理解の啓発及び推進事業
国際理解教室（2回）及び国際交流演奏会（1回）の開催
- ・毫州市訪問団受入事業（平成21年10月19日～20日）
市の友好都市である中国安徽省毫州市から訪問団（6人）を受け入れ
- ・外国人との交流推進事業及び支援事業
インターナショナルクッキング教室（1回）
日本語ボランティア養成講座（8回） 等
- ・日本語教室（約300回）
市内在住の外国人に対し、協会登録ボランティアが日常的な日本語を教える。

○その他経費 71千円

- ・会議出張のための職員旅費 29千円
- ・消耗品費 5千円
- ・毫州市訪問団来訪に伴うバス運転委託料 37千円

【事務事業評価】

市民が幅広く参加できる国際交流演奏会が開催されるなど、国際理解推進に向けて活動を行ったほか、毫州市訪問団受け入れが実現するなど、市民の交流活動が推進された。また、9月より始まった日本語教室では市内の外国人に生きた日本語を教えることができ、日本人と外国人の間での交流推進に役立っている。

【主な特定財源】

事業所管課	企画総務部／企画政策課
-------	-------------

予算科目	02総務費	01総務管理費	10地域振興費	
事業名	02 地域活性化事業			決算書
細事業名	05 木津川市等国内交流事業			P.100
決算額 ①	最終予算額 ②	不用額 (②-①)	執行率	
34千円	165千円	131千円	20.6%	

【主要な事務・事業及び成果の概要】

相互の理解と信頼を深め、文化・産業・観光等の交流を図り、もって友好親善関係をより強固なものとするとともに、住民福祉の増進と地域の活性化を図るために、平成20年1月に友好都市盟約を締結した木津川市との交流事業を実施した。

○少年野球交流

8月に木津川市の少年野球チーム（6チーム）が京丹後市を訪れ、京丹後市の少年野球チーム（3チーム）と交流試合を行い、交流と親睦を深めた。

○イベントにおける交流

11月に木津川市で開催された「木津川市木の津まつり」で、京丹後市ブースを設置し、地酒、米、梨、ちりめん製品など特産品の販売と京丹後市のPRを行い、両市の交流を深めた。

○木津川市等国内交流事業費

- ・旅費（木津川市木の津まつり出展） 4千円
- ・有料道路通行料（木津川市木の津まつり出展） 5千円
- ・補助金（少年野球交流） 25千円

【事務事業評価】

木津川市との交流は、子どもたちを中心にしながら、イベントでの交流等、人と人との絆を大切にしながら着実に交流・連携を進めているところ。今後は行政レベルでの交流をはじめ、民間レベルにおいてもさらに幅広い分野で、さまざまな交流を促進していく必要がある。

【主な特定財源】

事業所管課	企画総務部／企画政策課
-------	-------------

平成22年度 京丹後市行政評価委員会 施策評価結果（案）

施策名	国際交流と地域間交流の推進	担当部局 企画総務部
評価結果	<p>1 施策目的について 国際交流と国内交流を行うという目的が明確に示されており、わかりやすく記載されている。</p> <p>2 施策の達成度について 施策の達成度を「予定どおり進んでいる」と記載していることについて、おおむね妥当である。 ただし、亳州市（はくしゅうし）との交流については、交流のきっかけとなった薬草に関する事業の検証結果をわかるようにしておくべきである。</p> <p>3 事業構成の有効性について 事業構成の有効性を「おおむね有効であった」と記載していることについて、おおむね妥当である。 なお、国際・国内交流事業については、観光分野との連携を図り、より効果のある施策にしていくべきである。</p> <p>4 事業の優先度について 特段に評価結果と異なる意見もなく、評価結果はおおむね妥当である。</p> <p>5 今後の施策展開について 国際・国内交流事業に関わることのない市民にとって、この施策の成果は伝わりにくい。 このため、今後、都市間で提携することの意味・意義、そこに市民がどのように関わっていただきたいのか、ということを知りやすく、積極的にアピールしていく必要がある。</p> <p>6 その他 農作業に従事するために一定期間居住する外国人が増加している。生活習慣が異なる外国人と地域住民のトラブルが心配され、行政の対応が必要になることも考えられる。</p>	